



立山登山を終えて

山本 浩恵

昨年、山友会に入会した当時、自身が立山へ、またテント泊をするなど思いもしなかったことが実現できました。昨秋の山小屋泊白山からレベルアップ？したこと自分自身が驚いています。真夏に見る雪渓、奇跡的に遭遇できた雷鳥、雄山神社での万歳三唱、どれもこれも「参加してよかった」と心から思いました。3,000メートル越山行、テント泊、いずれにもチャレンジできたのは山行前から先輩方の支えやフォローがあり、特に山行当日は自身の体調不良があったにも関わらず無事に翌朝が迎えられたのは心強い先輩がいらしたからです。心から感謝しております。私自身、まだまだ力不足ではありますが、今後、頼りにされる先輩になれるよう頑張りたいと思います。帰路、振り返り景色を見ながら、いつかまた立山に訪れ、今度は別山、いずれは別山から剣山にも挑戦したいと思いました。

小泉 弘道

今回の楽しみは、初のテント泊と天の川撮影。よってテント一式にカメラ、三脚と夜の宴用の焼酎1.8ℓパックを入れ込み、重量18kgのザックでいざ出陣。

テント泊で心配だったのは、この狭い寝袋で寝られるのかと不安で色々対策は考えて来たが夜の宴で二日間とも、ほぼ爆睡。何の心配もなく、朝は快調そのものでした。

もう一つの天の川撮影。一日目は月が明る過ぎて見えず、いつも見る星空とあまり変わらず。二日目は夕方夕立があり、この天候では無理だと思い雨の中テント内ですることもなく、缶ビール500mlを2本飲む。雨が上がり、その後の宴の時には、いい調子。(笑)

後で聞くと、夜中には見えたそうです。何をやっているやら。残念！

しかし、良いこともあるもので雷鳥を見られました。

天候も良く、最高の景色で言うこと無し。全員無事下山できて良かった。

最後に、この山行にご尽力された皆様、有難う御座いました。

小川 弘二

コロナの蔓延による自粛や個人的な理由により、夏山登山に参加するのは4年ぶりである。今回は立山ということでテントを担いで歩く距離も短いということで雷鳥沢でのテント泊コースを選んだ。リュックの荷物は15kg+手荷物3.5kgと年寄りには負担が大きく更に室堂からは水2kg+ビール0.5kgとテント場に着いた時にはへろへろの状態。

早速トイレ近くにテントを張るがポールの紐が切れていたり、伸びきったりして組み立てるのに四苦八苦。何とかしてテントを張るが小雨がポツポツ。持参の敷物で仮設テントを設営し、早速宴会。テント組の男性は皆お酒が好きで盛り上がるが明日に備えて今日は早めに切り上げる。

翌日は快晴で朝早くから起きて食事の準備。年と共に便が一度に出ず、何回もトイレに行かねばならず、これが一苦勞である。女性組と合流して真砂岳を目指し、大走りの急登を気持ちよく登る。今年の冬は雪が多く降ったと思うが暑い日が続いた為か残雪が少ないと感じた。真砂岳から富士の折立に登って暫くすると山小屋泊の立山縦走組と出会う。皆さん元気に頑張っておられて検討を祝す。その後は対向者が多かったが大汝山・雄山を経てテント場に戻る。お風呂に入りに行ったが満員で順番待ちのため、ビールを買って風呂に入らずテント場に戻る。テント場に戻りトイレに行ったところでキツイ雨に見舞われ傘を持っていないため目と鼻の先のテントに戻れず約30分間同じ境遇の婆ちゃんと話しながら雨宿り。

その後、皆が揃ったので早速昨夜の宴会の続き。私は酒が弱いので早めにテントに引き上げ寝袋に入ったが結構盛り上がったようである。山登りに来たのか酒を飲みに来たのか？？いつもの事である。

今回は今までにない43名という大多数の方が参加してくれた。この要因としては早くから山を選定し、コースもベテランから初心者まで幅広く参加できるよう多くのコース設定を行ってくれたことが大きな要因と考える。それと共に最近入会した人たちの山に登りたいという意気込みが感じられる。その表れが参加者の数であり、又、初めての高所登山に関わらず、テント泊も初めてという方も何人かいてその積極性に脱帽する。

今回の夏山集中登山はケガもなく大成功に終わったが、リーダー並びに山行部の皆さんの多大なる努力にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

岡本 純子

初めてのテント泊で何をどうすればいいのかも分からず、気が付けば自分の背丈より大きな荷物になってしまい、先輩方にアドバイスしてもらえば良かったとちょっと後悔…

当日は、とてもいいお天気に恵まれ綺麗な景色を見ることが出来て素晴らしい山行でした。

また雷鳥も首から上だけしか見えませんでした、会えて嬉しかったです。

そして、途中で見えた剣岳にいつかは登りたいなあと思いつつ立山を後にしました。

松嶋 芳人

初めて夏山登山に参加させて頂きました。

以前からいつかは雷鳥沢でテント泊するのが憧れでしたが、一から道具を揃えないといけない事もあり、なかなか決断できずに今まで過ごしてきましたが、同期の仲間達が果敢にテント泊に挑戦する姿を見て、ここでテント泊を始めないと永久にすることはないのでは？と思い立ち、コース変更しました。荷が重くなり苦労もありますが、より大自然を近くに感じられ、自由でプライベートな空間は至福の時間でした。

背中を押してくれた仲間に感謝感謝です。

仲野 郁代

立山は10年以上前に家族旅行で、立山黒部アルペンルートに行ったときにたくさんの登山をされる方たちを見て、「私もいつか登ってみたい!!」とあこがれていた山です。登山を始めるきっかけの山でした。今回、山友会の夏山合宿登山で夢をかなえられて本当に嬉しかったです。

登山歴、力量、体力も様々なメンバーとの集団での登山は、学びもありますが緊張の連続でもありました。関西近郊の山で体力や技術をつけて、来年の夏への目標ができました。

夏山登山テント泊で頑張ったこと。感じたこと。

今村 ひとみ

①準備

②ザックの重量を軽くするための心得を持つての取り出し作業

③水は大切。水は重い

④あまり心配せず適応能力に任せる

⑤重いザックを担いでどんな道を歩こうが、安定して歩ける筋力と気力を付けること（これは課題かな）

皆様にお世話頂きながら楽しい立山登山ができました。立山参拝の大声での万歳三唱、景色、星空どれも最高でした。ありがとうございました。

豊田 博紀

初めて夏山合宿登山に参加させていただき、大変実り多い山行で、来年もぜひ参加したいと思える登山となりました。美しい自然の中で、大好きなキャンプができ、大変幸せな時間を過ごすことができました。

20kgを超える荷物を担いでの長距離の山行、高山でのテント泊、班長としての山行等初めての経験ばかりで、普段顔を合わせない山行部のメンバーの皆さんとの交流、テント場での諸先輩方との飲み反省会、泥酔者の保護(笑)等、忘れられない沢山の良い思い出が出来ました。また、諸先輩方からご指導をいただき、自分に足りないもの等の課題や改善点も見えてきました。

8月末には、初CLの富士山山行が控えています。この経験を次回の山行等に生かしていきたいと思えます。

廣瀬 秀憲

今まで行きたかったが、「機会」がなかった立山ようやく登ることができました。

今回は扇沢から黒部ダム経由で室堂へ。黒部ダムは、映画「黒部の太陽」を見て育った人間としては感慨深いものがありました。このような山奥に大量な資材をいかに運び、多くの人間がぶつかり合い、大変な苦労を重ねた姿に興奮したものだ。

キャンプ場からの見上げる稜線は、穏やかな緑色で翌日が楽しみにさせてくれた。

翌日6時にキャンプ場を出発。大走りコース、真砂岳、富士ノ折立、大汝山、雄山、一ノ越からキャンプ場へ

登りはさすがきつい。しかしコースタイム通り真砂岳に到着。

真砂岳は北に剣岳、西に奥大日岳、遠くに能登半島、富山湾が望め最高の景色が広がっていた。

富士ノ折立までに予想以上に時間を要した。ここで逆コースのパーティと合流。想像より早いのに驚く。

立山は穏やかな山に見えていたが岩場の連続で、意外とてこずった。すれ違いの人が多いため時間のロスがかなりあった。特に雄山は、大汝山方面への人と、雄山まで登ってきて引き返す人がごった返して時間がかかった。3時過ぎにキャンプ場に到着。

雨が止んだ後、楽しい宴会。40代、50代、60代、70代と話題が弾み、羽目も外すこともまた楽しい。翌朝早くテントをたたみ弥陀ヶ原に出発する若い？連中を見送って、タフさに感心。頼もしい連中が入ってきたものだ。

